

鳥取県知事

平井伸治様

# 鳥取県への提言

平成30年10月10日

とっとり創生若者円卓会議



## 【はじめに】

私たちとっとり創生若者円卓会議メンバーは、今年度の円卓会議のテーマである「地域を応援する仲間創出(とっとりとの関係人口拡大)」と「山陰海岸ジオパークの魅力発信」に共感し、一緒に鳥取県を盛り上げていきたいという熱い想いをもち、一丸となって取り組んできました。

今回提言を行うにあたっては、若者ならではの視点を大切にしつつも実現可能な内容であること、生の情報を求め積極的に地域に飛び出すことを心掛けました。

各メンバーから出た意見と現地視察等で感じた課題をもとに、アイデアを出し合い提言書としてまとめました。意見やアイデアが幅広くまとめるのは大変でしたが、一つひとつの提言に対し話し合いを重ね、納得できるものができたと考えています。

私たちの提言が、鳥取県の活力ある未来へつながる一助となれば幸いです。

最後に、私たちの円卓会議としての活動はこの提言書をもって終わりとなりますが、今後とも鳥取県に誇りを持ち、鳥取県を元気にするお手伝いをしていきたいと思ひます。

平成30年10月10日

平成30年度 とっとり創生若者円卓会議メンバー 一同

## 【メンバー(17名)】

○テーマ1：地域を応援する仲間創出（とっとりとの関係人口拡大） 8名

岩田 直樹 榎本 佳奈 語堂 正範 田中 泰子 高信 彩也香 田畑 英野  
葛木 伸一郎 成瀬 望 (敬称略)

○テーマ2：山陰海岸ジオパークの魅力発信 9名

入船 諒 大生 唯統 木下 裕一郎 田中 裕子 土井 健三 野口 さやか  
前田 泰 向井 健太郎 米田 伸之介 (敬称略)

## 〔提言書1〕

# テーマ1:地域を応援する仲間創出(とっとりとの関係人口拡大) について

### 【提言の背景】

東京一極集中や少子高齢化により地域の担い手である人口が減少している。

人口最少県である鳥取県では早くから子育て世帯等、移住希望者の対象に合わせた移住施策に取り組んでいるほか、住みたい田舎ベストランキング(宝島社)で県内市町が全国1位になる等、鳥取県の住みやすさが全国的にも注目を集めている。今後も地域力の維持・強化するためには、切れ目のない移住施策が重要である。

現在、更なる地方創生策として、「移住・定住」とは異なり、別の方法で地域と関わりを持ち新たな地域の担い手になりうる「関係人口」が注目されている。「関係人口」とは、移住した「定住人口」と観光に訪れた「交流人口」の間に位置づけられる者のことで、県外に住んでいても、ふるさと納税や鳥取県の物産の購入をはじめ、定期的に鳥取県を訪れて地域活動に参加したり、県外からの視点で課題解決のアイデアを出したりと、地域と多様な関わり方ができる。

地域を応援する仲間を創出するためには、地域と県外の人をつなぐ場や県外の人が「自分ごと」として地域のことを考え、楽しく継続できる事業が必要となる。

この度の提言では、「関係人口」という考え方に着目して、実際に鳥取県内において地域外からの人を受け入れている団体へのヒアリングと「関係人口」の概念について第一人者の方へのヒアリングをもとに、「県外の人が鳥取県と継続的につながる取組」と「県内に関係人口を受け入れる体制づくり」の2つの視点で提言書をまとめた。

### 【グループ活動(主なもの)】

- 複合型ゲストハウス たみ(東伯郡湯梨浜町)  
オーナー、宿泊客と意見交換
- 解放 Guest House 勝造(米子市)  
オーナー、宿泊客と意見交換
- 五しの里さじ地域協議会(鳥取市)  
農家民泊を受け入れられている地域の方と意見交換
- 体験と民泊 もちがせ週末住人の家(鳥取市)  
ワーキングホリデーの学生と一緒に関係人口についての勉強会、意見交換
- 関係人口セミナー(総務省主催:大阪市)  
有識者による基調講演やパネルディスカッション等により関係人口に関する理解を深める。



「もちがせ週末住人の家」  
での勉強会

## 【提言その1】

「①鳥取が好き！②自分の住むまちから鳥取のために何かしたい！③鳥取に行って役立ちたい！」という「関係人口」になる人たちの潜在的な想いをさまざまな機会を通じて掘り起こし、地域の課題と一緒に考え、鳥取県と継続的につながる仕組みをつくること。

### 【具体的方策】

○関係人口になる人たちが鳥取県に関わるきっかけとして、「鳥取県のおいしいもの」「鳥取県にゆかりのあるマンガ(アニメ)ファンの集い」「20代限定鳥取出身交流会」等、同じ趣味やルーツのある人同士が鳥取県出身者らとともに鳥取のことを考える「交流会」を実施し、「鳥取県のために何かしたい！」という潜在的な想いを掘り起こす。

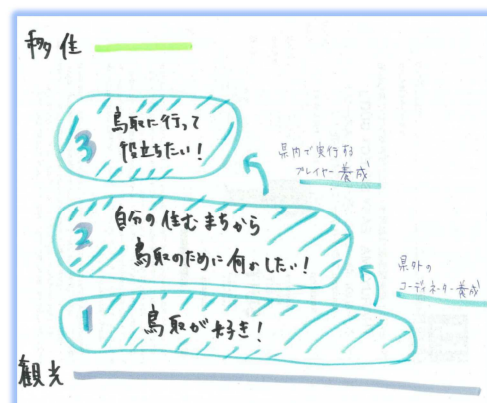
○関係人口になる人たちが「関係人口になる3ステップ(※)」の①～③のどれに当てはまるかを把握し、各段階に応じたイベントの案内を行いながら継続的なつながりを築き上げる。

※メンバーが提唱する関係人口になる3ステップ

- ①鳥取が好き！
- ②自分の住むまちから鳥取のために何かしたい！
- ③鳥取に行って役立ちたい！

(例) 

(例)	{	・①、②の人には都内で鳥取のイベント案内
		・③の人には鳥取で開催される地域のイベント案内



○関係人口になる人たちが、「自分ごと」として地域に関わり、関係人口と地域住民が継続的につながる仕組みとして、関係人口と地域住民が交流し、地域の魅力と課題を同時に見て体感する「滞在型プログラム」を実施する。

## 【提言その2】

県内に「関係人口」の考え方を広く周知し、地域住民等と「関係人口」の出会いがある場所や拠点である『関係案内所』同士の繋がりを活性化させ、県内に「関係人口」増加のための受け入れ体制をつくること。

### 【具体的方策】

○まずは地域住民や団体(例:ゲストハウス・民泊・カフェのオーナー等)が「関係人口」について知ることが大切です。県外から地域に人が来ても「どうせ帰ってしまう」という意識から、「どうしたらもっと地域に関わってもらえるか」に気持ちを変えるためのきっかけの場を設ける。

○地域住民等と「関係人口」の出会いがある場所や拠点で、人と人をつなぐ役割を持った『関係案内所』が必要です。地域で活躍する人と地域住民等が地域の魅力や課題等を発見するための場や、地域づくりのプロの指導を受けたり、「関係人口」になる人たちが地域にどのように関わっていきたいかを把握するためのワークショップを開催する。

○『関係案内所』同士のつながりが生まれ新しいつながりを呼ぶような支援を行い、県内に「関係人口」増加のための受け入れ体制をつくる。

## 〔提言書2〕

### テーマ2: 山陰海岸ジオパークの魅力発信について

#### 【提言の背景】

この度の提言を作成するに当たって私たちは、城原海岸(岩美町)を中心とする山陰海岸ジオパークガイド、高知県室戸市「室戸ユネスコ世界ジオパーク」等の視察を通じて、様々な刺激を受け、学び、そして発見することができた。

まず、ジオパークが地形地質の分野のみを発信するのではなく、そこに生きる動植物や人間の営みが、どのように大地の影響を受け成立しているのかという点である。特産品や温泉等と山陰海岸ジオパークとの関連性をもった情報発信やガイドツアーを地域住民との協働によって企画することで、より魅力的な発信になると思われる。

次に「室戸ユネスコ世界ジオパーク」ではジオパークの取組がごく自然な形で地域住民に浸透しており、行政機関と住民との連携体制が非常に強力だった。持続可能なジオパークの活動を実施するには、ジオパークの専門性を維持しながら住民目線を見失わない取組が必要である。

さらに、他地域との交流はジオパーク活動のノウハウの共有のみならず、自地域の魅力の再発見につながる等、非常に重要な取組である。ジオパーク活動のさらなる発展に資するものであるため、多くの地域との活発な交流が必要である。

以上の点を踏まえて、この度の提言は「地域住民が主体的に参画できるジオパーク」と「国内外のジオパークとの交流の活発化」の2つの視点で提言書をまとめた。

なお、平成27年に世界ジオパークは国連の機関であるユネスコの正式事業となった。これにより、国連の定める持続可能な開発目標(SDGs)の達成(例:ジオパーク活動を通じた気候変動対策)に寄与することを求められる等、ジオパークを取り巻く情勢は認定時とは大きく変化している。鳥取県のジオパーク活動も世界情勢を見据えてより発展していくことを期待したい。

#### 【グループ活動(主なもの)】

- 室戸ユネスコ世界ジオパーク(高知県室戸市)  
ガイドツアー(室戸岬内)やジオパーク内の視察、  
室戸ジオパーク推進協議会、ガイドの皆さんと  
意見交換等
- 山陰海岸ジオパーク(岩美郡岩美町)  
ガイドツアー(城原海岸を中心)とガイドへの取材
- ジオパーク科学実験教室(公立鳥取環境大学:鳥取市)  
山陰海岸ジオパークに関する展示品の見学や地球科学等に関する体験
- 郷土文化講演会「ユネスコ世界ジオパークが目指すもの」(鳥取県立図書館:鳥取市)  
世界ジオパークが取り上げる災害教育や持続可能な開発などをテーマに山陰海岸ジオパークの現状の再確認



室戸ジオパーク協議会、ガイドの皆さんと記念撮影

## 【提言その1】

**私たちはジオパークの中で暮らし、その恵みを受けて生活しています。さまざまな工夫によって地域住民が主体的に参画し、持続可能なジオパークを目指すこと。**

### 【具体的方策】

- 日本海の形成により誕生した山陰海岸には、貴重な地形・地質と美しい景観、歴史・文化の原風景を楽しむことができます。地域住民、ジオガイドも含め情報交換・経験の共有を重ねながら、官民が一体となって地域の素材を活用したガイドツアーを企画する。
- 山陰海岸ジオパークは鳥取市西部地区が追加される等、3府県3市3町にまたがる広大なエリア（東西120km）なため、どこからがジオパークかわからないことがあります。地域住民への聴き取りを行い地域の魅力を掘り起こし、県内の西と南の玄関口に来訪者を歓迎する「大地の息吹を感じられる山陰海岸ジオパークへようこそ」等の看板を設置する。
- 地域住民がジオパークの理解や関心を高め、ジオパーク活動へ参画できるよう、ジオパークの特徴的な地質、自然環境、歴史、文化等を学ぶための「ジオパーク講座」を公民館や自治会を対象に開催する。
- ジオガイドがガイド用の小道具作成等、自らの活動をより充実させたいと考える際のサポート体制をより充実させ、ガイドツアーの魅力向上に寄与する。

## 【提言その2】

**よりよいジオパークの活動にするために、国内外の各ジオパークの活動からお互いに学び、研鑽し、連携を深めていき、人的交流や情報交換を進め、交流の活発化を推進すること。**

### 【具体的方策】

- ジオガイドが他地域のジオパーク（例：室戸世界ジオパーク）の取組を知ること、ガイド力の向上及び山陰海岸ジオパークの魅力再発見につながるため、ガイド・団体同士の人的交流、意見交換ができる場をサポートする。
- ユネスコが求める世界ジオパークネットワークの一員としての貢献や、ジオパークに対する認知度向上に資するため、日本国内の世界ジオパークの紹介コーナー等を山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館に設置する等、発信を強化する。
- 世界ジオパークネットワークのつながりを活かし、旅行者が各地のジオパークを周遊して楽しめるガイドツアーを検討できるよう、各ジオパークとの意見交換を進め、アイデアを共有する。

## 【メンバーの主な意見】

### 【テーマ1：地域を応援する仲間創出(とっとりとの関係人口拡大)】

- 関係人口という考え方を、より多くの人に理解してもらい、今までにないような地域を活性化させる方策が生まれることを期待したい。
- 地域づくりの協力者になりうる「関係人口」は地域と多様な関わりを持つ人なので、創出するやり方も幅広いと感じた。
- 今まであまり気に留めていなかった「関係人口」に大きな可能性を感じた。自らも関係人口に関わっていることを頭にいれて活動したい。
- 関係人口というキーワードそのものが一般的に知られていない中で、今後、この切り口から地域を活性化させるためには仲間づくり・体制づくりが必要である。
- 関係人口は、地域との多様な関わりを持つ人なので、関係人口創出事業も幅広いと感じた。
- 関係人口と地域がつながり、関わるのが大切であると学ぶことができた。この取組で鳥取県が第2のふるさとになる人を増やしたい。
- 面白いと感じさせるヒト・場所・ことがあることにより関係人口を増やすことができると思う。
- ゲストハウスは宿泊客どうしの情報交換が行うことができる等、地元の人と県外の人がつながる場所になりつつあり、関係人口拡大のキーになるかもしれない。
- ゲストハウスも民泊も関係人口になる可能性はあるが、意識して継続した関わりを持とうとしないと広がらない。
- 関係案内所として人と人をつなぐ場が必要で、関係人口になりうる人を呼び込むだけでなく、受け入れ側が肯定的に捉えるよう理解を深めることも大事と思った。

### 【テーマ2：山陰海岸ジオパークの魅力発信】

- 山陰海岸ジオパークは海岸だけではなく、山奥(例:雨滝)もエリアになっている。各種資源を色々な売り出しができるので、地元の方と連携して魅力を掘り起こす。
- ジオパークは不特定多数に売り込んでいる気がするので、誰に何を売り込みたいかを絞るのもひとつの方法だと思った。
- ジオサイトの景観は素晴らしいので、写真集やプロモーションビデオ、ホームページ、看板などの製作は、プロのデザイナーに作成してもらった方がいいと思う。
- 7月に行った城原海岸視察では海水浴に来た県外客が多く見られた。彼らが山陰海岸ジオパークを認知するきっかけとして、分かりやすい看板を作るのも一案ではないか。
- ジオパークを身近な存在とするために、鳥取県産の蟹やイカ等を提供する飲食店に山陰海岸ジオパークとの関わりを示した三角柱等を掲示するような工夫が必要だ。
- ジオパーク活動の情報交換を行うために、国内のジオパークとの姉妹提携をしてはどうか。
- 「山陰海岸ジオパークの日」を制定して普及啓発を図ってはどうか。
- 無料や低料金のイベント・ガイドが故に、この分野は事業構築・維持が現状難しい。
- 分野によって十分な研究ができておらず、データ等が不足している。様々な分野で満足な研究活動ができるようサポートしてほしい。
- ジオロゴマークを使用認定されている食材企業の工場見学ツアーをすれば、ロゴマークの普及につながると思う。